

1996

千葉県建築文化賞

第3回表彰作品集

## 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 沼田 武

第3回千葉県建築文化賞に、多くの皆様方から御応募をいただきありがとうございました。

千葉県では、県民福祉の向上と県土の均衡ある発展を図ることを目標に、平成8年度を初年度とする「ちば新時代5か年計画」を策定し、21世紀に向けた新しい千葉県づくりに積極的に取り組んでいます。

本計画においては、千葉県の重要な政策課題として、まちづくりにおける地域文化の創造や「千葉県福祉のまちづくり条例」などに基づく生活福祉空間づくりなどを掲げておりますが、これらに対する県民のニーズを十分に踏まえた施策の推進の重要性がますます大きくなってきております。

千葉県建築文化賞は、こうした施策の一環として建築文化・居住環境に対する県民の認識を深め、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設したもので、景観に配慮した建築物と高齢者、障害者等に配慮した建築物の表彰を実施しております。

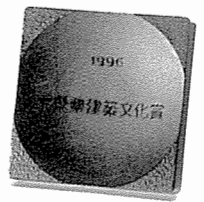
第3回目の今年度は広く県内各地から83件のご応募をいただき、その内容も規模の大きな公共施設から江戸時代の武家屋敷の復元までバラエティに富んでいます。

これらの応募作品の中から、選考委員の方々による現地審査を含めた厳正な選考過程を経て、建築文化賞5点、建築文化奨励賞4点を決定いたしました。これらの建築物は、いずれも景観や高齢者、障害者等への配慮がなされた優れた建築物であるとの評価を受けた作品です。

今後、建築文化賞が21世紀を展望するまちづくりの先導役となり、魅力ある建築物が県内に数多く建築されるような生活環境づくりを推進してまいりますので、県民の皆様方におかれましても、より一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに選考委員をはじめとする関係者や応募された方々、後援・協賛団体各位の御協力に感謝を申し上げます。ごあいさついたします。

平成9年1月



## 総評・選考経過

選考委員長 守屋秀夫

第3回目となる建築文化賞に対して今年も多くの方々からご推薦をいただき、応募総数は83件（建築数では77点）となり、前回は上回る数となった。今回も、応募建築物の所在地は全県下に広がり、一般県民からの推薦も多かった。

審査は、応募図書による書類審査で22点の建築物を選び、これらをすべて現地訪問して検討する、2段階の方式をとった。

今回も景観に配慮した建築物と高齢者・障害者等に配慮した建築物というテーマのもとに募集を行ったが、これらの点ばかりでなく、建築文化の発展を担う優れた建築物であることを選考の基本とした。とはいっても、何をもって優れた建築物とするかは審査員の間でも共通の考えがあるわけではない。強いていえば、使う人の立場で考えられており、外から見る人にも好ましい印象を与え、将来の発展に向かって積極的に取り組んでいる建築物ということになるだろう。少なくとも、巨大さ、豪華さ、あるいは奇抜さなどを評価の要素には加えなかった。

この結果、当初予定した表彰点数の部門別配分にこだわらない方が適当と判断し、多少の点数の移動と、推薦者の推薦理由とは異なった部門での表彰を決定したものがあり建築文化賞として5点を選考した。

また、今回は、入賞に準ずる内容をもち、表彰すべき何らかの特色をもつと認めた建築物を奨励賞として表彰することにしたが、4点の建築物をこの対象に選んだ。

### 景観に配慮した建築物

景観一般建築物の部門は今回も応募点数がもっとも多かったが、大規模の建築物だけでなく、県民の身近にあるちょっとした建築物も多数推薦を受けていた。小さな作品でも丁寧にデザインされていることと、みんなの関心がこのようなものに向けられてきた証として好ましいことと考える。

その中でも、「千葉県立幕張総合高等学校」は新しい学習方法を試みる高校という条件に対し積極的に取り組んだ設計であり、「印西市中央駅北コミュニティセンター」は付近の住民から活発に利用されており、親しみやすさが感じられた。「印西市立原小学校」は、公立の学校には珍しく、外壁にタイルを多用するなど比較的リッチな表情を見せているが、贅沢さを誇るものではなく、公共建築物の寿命

を長くさせるための手段として考慮された点は評価できる。内部にも特徴づける何かがあった。

「千葉市花の美術館」、「島田総合病院看護婦宿舎」は、それぞれ優れたデザインの建物で、とくに内部の構成にみるべきものがあるが、外部に対してやや閉鎖的である点が惜まれる。例えば看護婦宿舎の場合、内部に設けたパティオ（中庭）が心地よい空間をつくり、味気なくなりがちな住戸に至るまでの空間を楽しいものになっているが、昼間だけでも前を通る人にも見せてあげられないものだろうか。

景観住宅の部門では、「千倉・海の住宅」が長い海岸線をもつ千葉県にあって、海辺に建つ建物として景観の上で好例の一つといえよう。

幕張の新住宅、「パティオス」の新しい2街区が応募されたが、前回6街区を表彰しているの、今回のものもこれに準ずるではあるが、賞を見送った。「船橋の家」は、景観部門で応募されたが、景観としての目新しさよりも、老いた母親に対する心遣いを評価して、高齢者、障害者等の部門として表彰することとした。

### 高齢者、障害者等に配慮した建築物

この部門の応募・推薦はまだ比較的数量が少ない。とくに一般建築物の部では、老人施設や福祉施設が半数以上を占め、普通の公共的建築物が少ないのは残念である。しかも、推薦のあった建物でも、行ってみると、単に段差をなくし、斜路や手摺りをつけるなどの、マニュアルどおりの設計をただけで、実際、障害者がどのように手摺りに体重をかけるのか、施設にはいった人たちがどのような気持ちで毎日をすごすのかといった配慮はまだ不足しているものが多いように見受けられた。このようなことから、一般建築物の部では残念ながら建築文化賞に該当するものはなしとした。

住宅の部では、「西川邸」が、経済的に恵まれた条件にあるものの、高齢者に対する配慮が基本から行き届いている点で評価された。

「本田邸」は建売り住宅を設計変更したもので、その制約の枠内の計画であるための物足りなさが感じられた。「芝山の家」は、細部での心遣いがさらに望まれる。